

名言・格言

天皇の御代栄えむと東なるみちのく山に金花咲く

須売呂伎能 御代佐可延牟等 阿頭麻奈流 美知乃久夜麻尔 金花佐久

大伴家持
「万葉集」巻18-4097

大伴家持

大伴家持は、天平感宝元年5月12日(749年)、越中国守の館で、「陸奥《みちのく》国より金《くがね》を出せる詔書を賀《ことほ》ぐ歌一首を作った。意は、天皇(聖武)の御代は永遠に栄える瑞象《ずいしょう》としてこのたび東《あずま》の陸奥の山から黄金が出た、というので、それを金の花が咲いたと云った。

続紀《しょくき》には、天平21年2月(749年)、陸奥始めて黄金を貢いだことがあり(黄金900両、約13kg)、これは東大寺大仏造営のために役立ち、詔にも、開闢以来我国には黄金は無く、皆外国からの貢として得たもののみであったのに、朕が統治する陸奥の少田郡からはじめて黄金を得たのを、驚き悦び貴びたもう旨が宣せられてある。

